

<総 説>

Review

東京大学大学院農学生命科学研究科における  
農畜水林産物等への放射能調査活動について

東京大学大学院農学生命科学研究科放射性同位元素施設<sup>1</sup>

田野井慶太郎<sup>1\*</sup>

(2012年12月10日掲載決定)

Research of contamination in agricultural fields and products performed by Graduate  
School of Agricultural and Life Sciences, the University of Tokyo

<sup>1</sup> Graduate School of Agricultural and Life Sciences, the University of Tokyo,

Keitaro Tanoi<sup>1\*</sup>

(Accepted for publication 10 December 2012)

2011年3月中旬、東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故により大量の放射性物質が農地に降下し、農業上大きな問題となっている。東京大学大学院農学生命科学研究科では、研究科全体として本問題に取り組む体制を事故直後より構築し、調査研究を進めている。本総説では、調査開始から約1年半で判明したことの中から、食に関する調査として、「コムギ」・「モモ」・「牛乳」・「キノコ」・「魚」・「コメ」・「野菜」について、環境に関する調査として、「野鳥」・「農地の除染活動」について、学術的な研究として、「魚のエラのセシウム排出機能」・「森林生態系における食物連鎖」・「放射性セシウムの非破壊イメージング技術開発」について、社会学的観点からのアプローチとして「食に関するリスクコミュニケーション」について紹介したい。このように多彩な専門性と柔軟性を最大限活かした活動は大学でこそ可能な被災地支援であり、地元のニーズも高いと感じている。

キーワード：放射性降下物、農地汚染、放射能影響、食、環境

---

\* 〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

1-1-1, yayoi, bunkyo-ku, Tokyo, 113-8657 Japan

TEL: +81-3-5841-8496, FAX: +81-3-5841-8193, E-mail: uktanoi@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp